

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
378	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
<b>題名 (原題/訳)</b> <p>An open randomized study of the treatment of escitalopram alone and combined with <math>\gamma</math>-hydroxybutyric acid and naltrexone in alcoholic patients.</p> <p>アルコール依存症患者でのエスシタプロム単独ならびに<math>\gamma</math>-ヒドロキシ酪酸とナルトレキソンとの併用処置に関するオープン無作為化研究</p>	
<b>執筆者</b> <p>Stella L, Addolorato G, Rinaldi B, Capuano A, Berrino L, Rossi F, Maione S.</p>	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> <p>Pharmacol Res. 57(4): 312-317 (2008)</p>	
<b>キーワード</b> <p>アルコール依存症、再発防止、エスシタプロム、SSRI、<math>\gamma</math>-ヒドロキシ酪酸、ナルトレキソン、臨床試験</p>	
<b>要旨</b> <p><math>\gamma</math>-ヒドロキシ酪酸 (GHB) と選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) であるエスシタプロムはアルコールの禁酒をさせ、その状態を維持することで効果的である。オピオイド拮抗薬であるナルトレキソン (NTX) はアルコール依存症患者での再発を防ぐことに効果的であると考えられている。それぞれの薬物とその併用がアルコールの禁酒状態を維持することに効果を持つかどうか評価するため、アルコール依存症患者の6ヶ月間の再発頻度について検討した。第1群(患者11名)はエスシタプロム (20 mg/日) を経口服用した; 第2群(患者12名)はNTX (50 mg/日) とエスシタプロム (20 mg/日) を服用した; 第3群(患者12名)はGHB (75 mg/日) とエスシタプロム (20 mg/日) を服用した; 第4群(患者12名)はNTX (50 mg/日)、GHB (75 mg/日)、エスシタプロム (20 mg/日) を服用した。全ての患者群は心理学的ケアと週2回のアルコール代謝物の尿検査を受けた。</p> <p>第1群の患者では、3ヶ月以内に6人の患者が再発し、6ヶ月後には3人が再発し、2人が禁酒状態を維持した。第2群では3ヶ月後に5人が、6ヶ月後に3人が再発し、4人が禁酒を維持した。第3群では3ヶ月後に3人、6ヶ月後に3人が再発し、6人が禁酒を維持した。最後に、第4群では3か月後に1人、6ヶ月後に1人が再発し、10人が禁酒状態を維持した。</p> <p>結論として、NTX+GHB+SSRI (エスシタプロム) はアルコール依存症の再発を防ぐ点で最も効果的である。</p>	